

CENTENARY

2012. 7. 17
第 67 号
兵庫県立加古川西高等学校



文武両道による人格の形成

加古西の「地」

今号は本校の建つ「加古川町本町118番地」について考えてみようと思えます。

創立100周年記念式典が10月20日に挙行される我が加古川西高校ですが、昭和16年に現在の場所に移転してきました。

昭和16年といえば、日本の真珠湾攻撃の年ですが、移転式典はその直前の10月4日に行われています。当時はまだ県立高等女学校の時代です。戦争への足音が着実に大きくなっていく中で、当時の女学校生徒たちはどんな思いで移転式典を迎えたのでしょうか。

現在の生徒たちは、平和な中で100周年を迎えることができる幸せを想いながら、記念式典に臨んでほしいと思います。

さて、みなさんは戦国時代の武將で「糟谷武則」と

いう人を知っているでしょうか。

歴史に詳しい人は豊臣秀吉と柴田勝家が戦った「賤ヶ岳(しずがたけ)の戦い」はもちろん知っているでしょう。現在の琵琶湖北岸の賤ヶ岳を中心に、本能寺で憤死した織田信長の後継者の地位をめぐって両者が争った戦いです。

この戦いに勝利した豊臣秀吉が天下統一に向けて大きく前進していきます。

そこで、この戦いで活躍した武將たちを秀吉は「賤ヶ岳七本槍」と言いつて称えるのですが、その中に先ほどの糟谷武則が、歴史的に有名な加藤清正や福島正則に混じって名前を連ねています。



加古西の正門から校舎を見る



加古川市 称名寺

右図は、加古西のすぐ北にある称名寺というお寺です。ここには約400年前まで加古川城が建っていました。その城主こそが糟谷武則なのです。

糟谷氏は、元々は関東の御家人(武士)で、源頼朝に認められて加古川の地を与えられ、そのまま土着した、いわゆる武家の名門です。

糟谷武則は、元は志村姓を名乗っていたのですが、糟谷家に養子に入ってから継ぎ、賤ヶ岳の活躍で大名に出世しました。

その加古川城ですが、内堀の遺構水路は、ニッケパークタウン辺りから続いて

加古西の敷地横を流れています。

だから加古西は加古川城跡に建っていることになりました。

ところで、加古川城主糟谷武則はその後どうなったのでしょうか。

関ヶ原では、秀吉への義を貫いて西軍として戦います。

そのため、戦後の敗戦処理で加古川城は廃城となり、武則のその後は定かではありません。

義のために戦い廃城となる加古川城。そして運命を共にする加古川の街。なんとそんな潔い跡地に加古西は建っているのです。

ちなみに、現在の加古西生徒会長は糟谷さんです。これも何かの因縁でしょうか。



加古川城の内堀遺構水路

ちょっと一言 寺家町商店街の「人形の陣屋」さんの隣に樹恵堂(じゅとくどう)という建物があります。「陣屋」という言葉でもわかるように大名行列の際、大名が休憩をするところでした。かつて樹恵堂はニッケの寮として使われていました。私の父親がニッケに勤めていた関係からか、幼いころ、時々寮(樹恵堂)にお風呂をもらいに行っていました。今から50年以上前のことです。お風呂の後によばれる「サイダー」がとても楽しみでした。平成10年1月、市の指定文化財に選ばれています。当時はそんな由緒ある建物とは全く知りませんでした。いい思い出です。